

## 滋賀県地域情報化推進会議 平成29年度第1回データ利活用WG概要

日時 平成29年10月5日(木)10:00～11:45  
場所 滋賀県農業情報教育センター 1階 生活企画相談室  
出席者 別紙のとおり

### 1 主査あいさつ（要旨）

これまで、滋賀県地域情報化推進会議ICT利活用部会において検討されてきたデータ利活用にかかる検討を受け継ぐかたちで、本日より当WGにおいて議論を進めてまいりたい。

これまでの部会においては、1 昨年、昨年とオープンデータの研究を進めてきた。また、そのかいもあってか、県や一部の市にオープンデータポータルサイトが設置され、一定の成果があったとも言える。

しかしながら、データを公開するための基盤ができたというだけであり、利活用についてはまだまだだと考えている。

総務省の地域IoT推進ロードマップ等にもあるとおり、今後IoTの実装がますます進んでいくと考えられる。そうなれば、IoTデバイスから、様々なデータを取得できるようになり、これまで以上にデータ利活用ができる環境が整ってくると考えている。

こうしたことから、これまでのオープンデータ利活用だけでなく、ビッグデータの利活用も重要であり、その中から生まれた優良事例のスキームを横展開すること等について皆様と共に幅広く議論を進めたいと考えているので、よろしく御願いたい。

### 2 議題

#### （１）平成29年度データ利活用WG活動方針について

事務局より資料 1 に基づいてWGの目標、またそこに至るまでの手段、そして今年度の進め方について説明があった。

##### ○主査

説明のあったことについて、なにか御意見あるか。特にデータ利活用、自治体間横展開における課題提起については、例えば自治体においてオープンデータポータルサイトができない理由であるとかが課題としてあると思う。

京都市はDCANというオープンソースを使ってサイト構築されているのだが、このようなサイトとCKANとの連携であったり、自前でサイト作成ができないので、県域でのポータルサイトがほしい等は意見としてよく耳にするので、連携方式か統一方式かなどの問題についてもこの場で御意見頂戴したい。

##### ○主査

まずは、現状自治体で抱えている課題等について順に御発言を御願います。

##### ○部会員

オープンデータには以前から取り組む必要性を感じている。しかしながら、原課に対してオープンデータ化を依頼すると、余裕が無いためか、これ以上、仕事を増やすようなことを言ってくれる

などと言われる状況が発生する。

#### ○部会員

先日地域情報化アドバイザーの方の講演を聞いた際に、アドバイザーの方がおっしゃっていたことを紹介したい。内容としては、原課でできることには限りがあるので、オープンデータ化することで、民間活力を使って活性化するというものであった。だが、原課も今ある仕事を削ることはできないため、それと+αの作業依頼はどうしても過大要求ととってしまう傾向がある。

そういった現況についてどのように対応すべきか、良い事例や、対応策があれば是非学んでいきたいと考えている。

#### ○主査

私も大津市でも、オープンデータ化によってこういったメリットがあるのかと問われること等、原課の抵抗感というのは相当あった。庁内研修等を通じて、そのような抵抗感をいかに拭いていくかが重要だと考えている。

#### ○主査

続いて、本日お越しいただいているソフト関係の企業の皆様に、折角の機会であるので、御意見頂戴したい。

#### ○部会員

横展開について一言申し上げたい。横展開ではなく、まとめて1つのものを作ることを考えないといけないのではないかと。まとめることで、コスト面で有利になると同時に、バラバラなものを作って、各自ガラパゴス化することがなくなる。なにより一番の利点は、データの質が統一できることにありと考えるので、その点については県が音頭をとってやるということも考えていただきたい。

#### ○主査

横展開も様々なレベルやジャンルがあろうかと思う。

横展開に関する事例を言うと、岡山県倉敷市高梁川流域でよい事例があると聞いている。こういった仕組みを滋賀県において導入することも横展開と言えるのではないだろうか。

いずれにしても横展開の定義が明確ではないのは事実であり、その点についていただいた御意見は重要ではないかと思う。

もう1者、御意見を伺おうと思うが、如何か。

#### ○部会員

我々はデータを持っていない立場であり、どちらかと言うとお客様のデータを取り扱うことのほうが多い。

確かに、自治体はデータを持っていると思うが、それも限りがあると考えている。やはり、それ以外の民間データをどのようにして提供してもらうかが重要ではないか。

例えば、NTT西日本様や滋賀銀行様は様々なビッグデータをお持ちだと考える。機密情報はともかく、特に公共に資するデータについて、どのように提供していただけるか、また、提供いただいた民間データを、官民データ連携を行う等、どのようにして活用できるかということが一つの課題だと考えている。

#### ○主査

民間データを県域で利用する場合、データをどこかにアップロードする必要がある。果たして、

市のオープンデータサイトに民間のデータを入れることができるのであろうか。

ローカルエリアでの重要情報を集めて、民間データをメインに県や市のデータを集めたサイトを別個に作られるケースもあると聞いている。いずれにしても民間データの活用という点については今後の課題であり、重要な御指摘であると考えている。

その他、金融機関様からも御意見頂戴できるだろうか。

#### ○部会員

先ほどからの議論にもあったように、今回、自治体間というキーワードが出ていると感じている。それは、官からデータを出すということだと理解しているが、それより一段高く官民それぞれからデータを出すということが重要なのではないかと考えている。

これまでの議論にもあった、どのようなデータを提供してもらえるのかということについては、まずユースケース、つまり、どういった場面でどのようなデータが必要かということについて、依頼される方と話をしていく必要があるかと思う。そうしないと、持っているデータにそこまでニーズがあるということに、データ提供側が気づかない場合もあると考えている。

現在、滋賀大学様と共同研究を進めさせていただいているところだが、その中でも、この切り口で進めたほうがいいのか、このような結果が欲しい、こういった知見がほしい、そのためにはこのようなデータが良い等、対話を進めながら、進めているところである。

いきなり、オープンデータ化したデータからユースケースを考えるという場合もあると考えているが、一方、ユースケースから逆算してデータを提供する場合もあると考えるし、その両面から進めていくことが必要ではないかと考えている。

部会員の皆様からも、データを使ってこんなことができないか、このようなデータがほしい等のご要望があれば、持ち帰って検討したいと思うし、この場でそういった議論ができることを望んでいる。

ここまで述べたような活動方針で進めていただければありがたい。

#### ○主査

私も大津市のオープンデータサイトを構築する際に、最初はなにが良いかも分からないので、アイデアソン、ハッカソンを実施しながら、Open by defaultの方針でなんでもいいから提供データを提供するというで進めてきた。

しかしながら、3年ほど前に神戸市様のお話を聞いた時に、それだけでは駄目だと気付かされた。

Open by defaultの方針は重視しながらも、ニーズ、特に企業ニーズを重要視すること。また、シーズとニーズのマッチングをいかにやっていくかが重要であり、我々もそういった方向に切り替えていくことを考えているところである。

#### ○部会員

オープンデータの推進に関して、過去3年ぐらい取り組んでいる。その中で感じるのは、地域の課題を解決するためにはデータの公開以外、道がないのではないかとされるほど、データの公開、活用は重視されている。データと言った場合、一つは公共データ、もう一つは民間データがあると思うが、公共データについてはニーズとシーズのマッチングを考慮に入れながら、基本的にはOpen by defaultの方針で進めていただきたい。実際にマッチングにより企業誘致に成功した

事例も聞いている。

民間データに関して言うと、企業の競争力に関わるデータは当然出せないわけである。しかしながら、企業の競争力に関わるデータであっても、最終的に出すことによって企業に優位性をもたらすことができれば戦略的に公開も可能となる。

保有しているデータでも民間の人から見て便利だというものがあると思う。そのようなデータを提供していただくことで、試験的に官民データポータルサイトを作成するのがよいと考えている。

具体的には、大津市様とアーバンデータチャレンジというイベントを行っているが、その取り組みの中で年度内に官民連携データポータルサイトを作成予定である。

#### ○主査

近江ディアイ様には様々御協力いただいて、実証実験的な形でできればと考えている。よろしく御願いたい。

#### ○部会員

昨年度までもICT利活用検討部会では、様々なテーマを幅広く取り扱ってきた。現在、情報を参考にしているレベルから、一歩踏み出している段階と認識している。

私は湖北に住んでいるが、昨今洪水があった。滋賀県においては河川の多様性に非常に特色があり、また、データを見渡すと、河川の監視データがそこかしこにあると聞いている。

この監視データが、どの程度提供されるものなのか、確かに、管轄が県や国、それと市町まで及ぶかどうかは不明なところもあるが、こういった情報確認もWG活動の中で披露いただきたい。

先ほどFMおおつ様からも御発言のあったように、地域の防災というのは非常に共通性のある課題の一つであるとは認識しているので、地域の防災に関するデータの存在と提供度合いについて是非議論を行っていきたい。

偏った表現をすると、国は国で県に依頼してしまう、県は県で市町に依頼してしまうみたいなデータ取得構造であると、結果として得られた防災データは誰が吸い上げることができるのか。オープンデータとして提供できるものを提供という方針で進めるのは難しいという意見もあったが、データ提供に関する基軸としての一本線だけでも御提示いただいて、それについて検討いただくことで、わかりやすくなるかと考えている。よろしく御願いたい。

#### ○主査

では、今年度の活動方針については案のとおりとし、部会員の皆様からいただいた御意見も踏まえながら進めていくこととする。

### (2) (仮称) 滋賀県ICT推進戦略について

滋賀県情報政策課より資料3に基づいて、(仮称) 滋賀県ICT推進戦略骨子案の説明を行った。

#### ○主査

ただいまの説明に対して、何か御意見等あるか。

#### ○部会員

私も地方創生の観点から県内、県外自治体の方と話をすることがよくある。その際に地方創生の観点からみて、「どんなことを今後の目標にされているか」、「どういったことがしたいですか」と聞くと、なかなか具体的にでてこない場合が多い。データ活用の中でも、どのデータを出すかであるとか、どのデータを活用するのかは様々書かれているが、最終ゴール地点、つまり、このデータを使って何を目的としているのか、行き着く先はどこなのかというところが少し見えにくいかなと感じる。

物事を決めるときに、バックカスティングといって、目標があってそこに向けてどのように計画していくか、というのを積み上げていく手法があるが、現状、骨子案は、フォーカスティング的に、幾つかのプロセスを実行して、最終的に目標地点に至るという形で積み上がっており、最終どこに向かっているのかゴールが見えにくいと感じている。

先ほど御紹介したように、ゴールを定めてそこから逆算して計画をたてていく手法も一つのやり方だと思うが如何か。

#### ○主査

民間企業だと目的を明確にして、それに向かって進んでいくという手法はよく用いられる。非常に重要な御意見だったと考える。

だが、国だと内閣官房などが進めている方針は多分野で何がなんでもやるような感じであり、非常に一つのものに絞りづらい。個人的には、そのようなやり方をすると、どうしても概念的になってしまうを得ないように感じている。

#### ○滋賀県

御意見いただいたとおり、本骨子案の段階でゴール地点が見えない、というところで、実際にまだおぼろげなものしかないのであるが、今後、目標、ゴール地点は何かということで3ページにある基本理念なり、ICTデータの利活用により目指すべき社会の姿のところに記載していきたいと考えている。

より具体的な取り組みについては、5ページにある実施計画のほうで目標値なども含めて記載していきたいと考えている。

今回の計画は5年計画だが、ICTの世界は日進月歩であり、すぐに過去のものとなってしまうのではないかとことをよく言われている。であるので、基本理念等はできるだけフレーム的な、抽象的なものになるかもしれないが、長く使えるものとし、毎年、策定なり改定する実施計画において、具体的なものを考えていきたい。

初見で申し訳ないが、本骨子案をご覧いただいて、具体的なところでもなにか御意見あれば頂戴したいと思うが、よろしく願います。

#### ○主査

具体的に細かいレベルまで出ているものもあれば、概念的にしか記載できないものもあるかと思うが、その辺りも含めてできる限り、これまで頂いた御意見を反映していただければと考えている。

#### ○主査

骨子案6ページの各主体の役割の中に、②市町の役割とある。この中に、データの利活用の推進という記述があり、確かに大事だと思うが、なによりその横に記載されている、行政手続き

のオンライン化とデジタルガバメント、民間で言えばデジタルカンパニー、この2つが重点的な施策になってくると考えている。15年前にあった電子自治体の推進の再来ではないかと思う。あの時はユビキタス等騒がれたが、現在では、マイナンバーの活用等による行政手続きの簡略化等、今後ますます取り組んでいく必要があると考えている。

#### ○部会員

和歌山では、WG以外のところで、市町村の方でデータ利活用に興味のある有志の方が集まって、オープンデータマップ等を積極的に作っておられた。市町村の中で必要なゴミの収集、収集日等がすぐにわかるようなもので、すごく役立つと思った。

やはり、市町村や住民の方が目で見て分かるものを返すのが必要で、重要だと考える。

また、本骨子案においては、文字が主となった構成であるが、これを見てもおもしろくないし、楽しくない。5年間かけてこのようなことをやれば、こんな風になるよという、みんながワクワクするような楽しくなるようなことを書いておかないと魅力がないのではないか。

現状、国が計画策定を求めているので、県としてはこのような計画を立てますという、利口な文書になっていると考える。

最終的に住民を巻き込んでの計画だと理解しているので、もう少しワクワクするようなものを盛り込むよう、加味されたほうがよいと考えるが如何か。

#### ○主査

今お話いただいたビジュアル性の高い見せ方というのは非常に重要なことである。また、夢をどういう形で見せるかは、県としては非常に難しいとは思いますが、貴重な御意見をいただいたと思うので、是非これを踏まえて進めていただきたい。他に御意見あるか。

#### ○部会員

先ほどからマイナンバーの話、市町の役割としては行政手続きのオンライン化等を謳っていただいているところであるが、自治体では、これからマイナンバーカードを使ったマイナポータルスキームによる電子申請等を進めるにあたり、動き始める準備を進めているところである。

その際、行政職員というのは基本的にデジタルに疎い、なにができるか理解できていないと感じることが多い。いざ、ICT化により画期的なことができると言っても素直に受け取ってくれないことが多い。

確かに対面の良さも理解できるが、それだけやっても、話が進まないのも事実である。そういった行政職員側の意識の変革もこれから求められていくのだろうと思うが、なかなか一朝一夕で上手くいかないという悩みは電算担当としては普段から感じるところである。

また、我々も認可やシステム管理を進めていく上で、コストがかかる。そうすると案件の少ない業務に対してコストをかけてシステム化するのが本当に必要かという意見も出てくる。なにもかも全部ICT化するというのは難しいので一定絞り込んでいく必要があるのかなと思う。

#### ○主査

御意見いただいたとおり、大津市でも、システムの導入について、同じような問題がある。

情報政策的な分野を進めるにあたって、どうしても現場関係、窓口関係の部署が受身になっている。現場は忙しい、それどころじゃない、窓口対応で忙しいと言うところにどのように説明して、理解してもらうか。庁内的な対応、折衝も含めて、市町もますます頑張らないといけな

ている。

#### ○部会員

大学の役割等について申し上げますと、適切に書かれていると感じる。

データサイエンス学部ということで様々な取り組みを実施しているが、地域との関わりを重視しないといけないという側面と、また、この分野では全国的に人材が不足しているので、卒業生が全国で活躍できるという両面があって、どちらも重要。全国で活躍してもらいたいという気持ちもあるし、地域を支えてほしい気持ちもある。

地域とのかかわりの面では、学生の中から地域の方と一緒に考える、企業との連携においても地域の企業と連携する、ということが必要だと考えている。

例えば先週工場見学に学生と行ったのだが、こういった活動を通して、地域にどのように関わっていくか、データについてどのように考えていくか、そのあたりについて今後考えていきたい。

#### ○主査

大学との連携も今後益々重要になってくると考える。今後ともご指導いただきたい。

#### ○主査

活発な御議論をいただき、ありがとうございました。県におかれましては、本日の御意見を参考に（仮称）滋賀県ICT推進戦略素案の作成を御願いたい。

#### ○事務局

議題 1、議題 2 に関わることに付いてだが、まず、議題 1 の活動方針については概ね御了承いただけたと考えている。

部会員の皆様からは、横展開について、統一のものを作ったらどうか、基軸を打ち出すべき等御意見をいただいた。

一方で、他の部会員様の御意見にあったように原課がデータを出したくないという点においては県においても同じである。現状、各市町、県においてオープンデータに対する深度はまちまちであるし、これでは統一的なものを作ろうにも、統一するための元となるものがない状況であると考えている。

このため、こうした部会等において、まずは横展開を図っていきたい。

これまでは、滋賀県においても数年前は全庁的にオープンデータ推進には否定的な空気があったが、現在は空気が大きく変わって、オープンデータ化を推進しなければいけないというところが、幾分浸透してきたのではないと思う。

新規システム開発においてオープンデータを取り込んでいくことを前提にシステム設計する等の取り組みも始まってきている。そうすると手間も軽減される。そういうやり方も部会等を通じて広げていきたいし、戦略の一部に盛り込んでいければ良いと考えている。

いずれにしても、（仮称）滋賀県ICT推進戦略策定にとって、今後とも当部会の場合というのは重要なものと認識しており、今後とも各部会員の皆様の御協力をお願いしたい。

#### ○滋賀県

1 点補足したい。先ほど庁内でなかなか人が動いてくれないという御意見があったが、官民データ活用推進基本法に基づく、市町村の計画は努力義務であるとはいえ、法定の計画である。

もちろん計画のための計画になってはいけないと思うが、その中にオープンデータの推進、行政手続きの電子化、マイナンバーカードの普及促進等は、計画を作るうえで基本施策に入ってくるものと考えている。このため、そういったものをきっかけに計画を作る過程で、庁内の機運を醸成するためのツールとして使えるのではないかと考えている。

我々の計画も先ほどの御意見にあったように、きちんと皆さんに読んでいただけるようなものではないと意味がないと考えていますし、また、内容についても皆様の御意見をお借りしながら詰めていきたいと考えている。

### (3) データ利活用の事例等について

資料2に基づき、木下主査から大津市における取組事例について発表があった。

#### ○主査

ここまでの発表に対し、御意見、ご質問等あるか。

#### ○部会員

大津市全体のサイト閲覧数のうち、オープンデータポータルサイトの閲覧数はどのくらいであるのか。

#### ○主査

サイトの集計は取っているのだが、詳細な数値は把握していない。

しかしながら、一般的なサイトと比べて多くないということだけは聞いている。

#### ○部会員

私の周りに聞いても、オープンデータというものについて知らない人が多い。

それをどうやって広げていくかが課題ではないか。

#### ○主査

広げていくにはポータルサイトが必要であることと、加えて県域のデータが必要だと考えている。

県域レベルのデータがないと何もできないのではないか。例えば企業がマーケティング一つするにしても、1市のデータだけでは何とも使い勝手が無いのではないか。

まずは、こういったWG活動を通じてオープンデータに対する認識を変えていく必要があるのではないか。そういった観点で見ても、やはり本WG活動は必要である。

#### ○部会員

ご回答いただいたように、滋賀県全体というレベルでのデータを持っていないといけない。

#### ○主査

県全体のデータがいい、だからといって県に頼るというのは間違いで、それぞれの役割分担を全うしないといけない。

ただし、県域でのデータの持ち方、利活用のあり方を考えないといけない。その際に、データの持ち方についてだが、連携的なやり方でやるのか、統一基準を作って基準を各市で共有し、規格だけを作ってそれに合わせる等様々なやり方があると思うが、現時点でこれがベストというやり方はわからない。

#### ○部会員



データの生成、整形というのは一定できると思うが、問題はその質である。

コアとなっているものを、表示していただかないとできない。

シーズ・ニーズのマッチングが必要というところが根本にあると理解しているが、民間企業からこういったデータを出してくれという依頼があると、その企業にはマッチングするが、他では使えないという問題がある。

それを解決するには全部のデータを提供してくださいとなる。全て提供することは大変だと間がるが、それが裾野を広げるための近道ではないか。

○主査

そのとおりである。Open by defaultの考え方で、提供できるものは全部提供する。どんな用途で使われるとかそういうことは一切問わない。とにかく提供する。というスタンスに立った上で、更に必要性、需要の高いものから提供していくということを進めていく。

○主査

だけど、現実にはなかなかデータが提供されない。こういったデータを提供すると、このような弊害があるとそういった話ばかりである。

そのあたり、行政において昔からある課題ではある。

○主査

これで予定していた議題は完了ということになる。

(4) その他

近江ディアイ様から下記についてお知らせがあった。

- ・自治体の職員の方向けオープンデータの悩み相談室（非公式イベント）の案内  
このことについて県のほうで告知してもらえないか。  
→推進会議のHP等で案内することを検討する。

○主査

本日は長時間の御議論に感謝申し上げます。次回以降データ利活用の課題等について検討していきたい。部会員の皆様にはデータ利活用における課題や、解決事例等々あれば、是非とも御発表いただきたい。よろしく御願います。

進行を事務局にお返しする。

○事務局

本日御発表いただいたデータについて、後日頂きたいと考えているので、よろしく御願います。

本日、御意見いただいた（仮称）滋賀県ICT推進戦略骨子案についても皆様に見ていただけた状態にしたいと思うので、よろしく御願いたい。

以上